



《トランプ勝利をどうみる》①

トランプ勝利と国民の深層

大方の予想を覆してトランプが勝利した。報道には「予想外」「番狂わせ」等の言葉が躍る。とはいえつい五か月前にイギリスが国民投票でEU離脱を決めた際にも同様の感覚を味わったことを思い出す。世界の政治・経済に大きな影響を及ぼしかねない「まさか」の事態が二度続けて発生したわけで、これはプレートそのものが動き始めたと考えてみる必要があるのではないか▼アメリカ国民は経済的格差の是正に無力だった既往の政治に変化を求めたとする一方で、大衆迎合主義に走ることへの懸念を表明する解説が多い。これはそのとおりであろうが、より本質的には貿易自由化や覇権拡大に対する幻想が崩れ去り、グローバル化への不信なり厭戦気分を持つようになって、これが国民の間に濃厚に渦巻いていることを反映した結果ではないか。リーマンショックから八年を経過してやっと「大きいからいい」「大きいほどいい」という「常識」に明確に疑問を突き付けたというようにも理解される▼これでTPPにアメリカが参加することはきわめて困難になり、TPPが発効する可能性はなくなったといっても差し支えない。こうした環境情勢の中、日本ではTPP承認案を衆議院本会議で可決した。経済成長を確保するためにはTPPが不可欠であり、これによって「他の国の早期批准を後押しする」こともねらいとしのぞり押しだ。わが国でも国民多くはTPPも含めたアベノミクスが幻想であることに気づき始めている。これを早く顕在化させて投票行動に結びつけていくことが大課題だ。

(土着菌)